

保育園における保育の質の向上のためのアクションプログラム第2期について

那須塩原市子ども未来部保育課

1 アクションプログラム策定趣旨と経緯

本市では、平成20年3月に改定され、平成21年4月に適用された国の「保育所保育指針」を受け、平成23年度を初年度とする「アクションプログラム（第1期）」を策定し、子どもの保育や保護者への支援を通じて、適切にその役割や機能を発揮できるよう、保育の質を高めるため取り組んできたところですが、平成27年度が計画終了年度である。

平成27年度から施行された子ども・子育て支援新制度においても、より一層の子育て支援策の充実が求められる中、本市の子育て支援策を支える専門機関としても保育の質の向上を図ることが重要であるため、「アクションプログラム（第1期）」を継承する「アクションプログラム（第2期）」を策定しました。

2 アクションプログラム（第1期）の反省と評価

①保育実践の改善と向上

毎年度ごとに、各園の実情にあった目標設定とその振り返りを行い、園全体での情報共有を通し、日々の保育実践の向上につなげてきた。また、第3者評価も計画的に受審し、その結果公表も行っているが、地域や保護者への情報発信に弱さがみられた。

②子ども健康や安全確保

衛生管理や危機管理などのマニュアル見直しや研修会参加。また、関係機関との連携も図りつつ、支援が必要な家庭の見守りなどの専門的知識や技術の習得を継続して行う必要がある。

③保育士等の資質・専門性の向上

積極的な研修会への参加やその後の情報共有と園内研修の充実や、発達支援児保育等の専門的知識や技術の習得を図った。引き続き、積極的な取り組みが必要である。

④保育を支える基盤の強化

地域や関係機関との連携のなか、地域への情報発信が全体的に弱さがみられた。

今後は地域等への情報発信の強化を図りたい。

保育士等の適正配置、保育環境の整備は各種計画に基づき、優先順位を考えながら取り組んでいくことが必要である。

3 アクションプログラムの推進

市や保育園等各々がその役割を果たしながら一体となり取り組むことが重要であり、情報共有や検証を通じ、必要に応じて本プログラムの見直しを行いながら推進します。